

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成18年11月9日(2006.11.9)

【公開番号】特開2006-262522(P2006-262522A)

【公開日】平成18年9月28日(2006.9.28)

【年通号数】公開・登録公報2006-038

【出願番号】特願2006-144192(P2006-144192)

【国際特許分類】

H 04 H 5/00 (2006.01)

H 04 B 1/04 (2006.01)

H 03 L 7/183 (2006.01)

H 03 L 7/08 (2006.01)

【F I】

H 04 H 5/00 A

H 04 B 1/04 H

H 03 L 7/18 B

H 03 L 7/08 M

【手続補正書】

【提出日】平成18年8月30日(2006.8.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

水晶発振子が接続され、固定の基準信号を生成する発振器と、  
分周器を用いて該基準信号から副搬送波とパイロット信号を生成する手段と、  
入力されるLチャネル信号とRチャネル信号を和信号と差信号に変換し、該差信号で振幅変調した前記副搬送波を該和信号と合成して出力するマルチブレクサと、  
該マルチブレクサの出力信号と前記パイロット信号が合成されたステレオコンポジット信号により周波数変調される搬送波の周波数を前記基準信号を基準として制御するPLL回路と、を備えてなることを特徴とするFMステレオ送信用回路。

【請求項2】

請求項1に記載のFMステレオ送信用回路において、  
前記PLL回路は、前記基準信号の周波数を分周する基準信号周波数分周手段と、前記搬送波の周波数を分周する搬送波周波数分周手段と、前記基準信号周波数分周手段と前記搬送波周波数分周手段の出力信号の位相差を検出して前記搬送波の周波数を制御する位相検波器と、を有することを特徴とするFMステレオ送信用回路。

【請求項3】

請求項1又は2に記載のFMステレオ送信用回路において、  
前記副搬送波の周波数は38kHzであり、前記パイロット信号の周波数は19kHzであることを特徴とするFMステレオ送信用回路。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

**【 0 0 1 8 】**

上記目的を達成するため、請求項 1 に記載の FMステレオ送信用回路は、水晶発振子が接続され、固定の基準信号を生成する発振器と、分周器を用いて該基準信号から副搬送波とパイロット信号を生成する手段と、入力される L チャネル信号と R チャネル信号を和信号と差信号に変換し、該差信号で振幅変調した前記副搬送波を該和信号と合成して出力するマルチプレクサと、該マルチプレクサの出力信号と前記パイロット信号が合成されたステレオコンポジット信号により周波数変調される搬送波の周波数を前記基準信号を基準として制御する PLL 回路と、を備えてなることを特徴とする。

**【手続補正 3】**

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

**【 0 0 1 9 】**

請求項 2 に記載の FMステレオ送信用回路は、請求項 1 に記載の FMステレオ送信用回路において、前記 PLL 回路は、前記基準信号の周波数を分周する基準信号周波数分周手段と、前記搬送波の周波数を分周する搬送波周波数分周手段と、前記基準信号周波数分周手段と前記搬送波周波数分周手段の出力信号の位相差を検出して前記搬送波の周波数を制御する位相検波器と、を有することを特徴とする。

**【手続補正 4】**

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

**【 0 0 2 0 】**

請求項 3 に記載の FMステレオ送信用回路は、請求項 1 又は 2 に記載の FMステレオ送信用回路において、前記副搬送波の周波数は 38 kHz であり、前記パイロット信号の周波数は 19 kHz であることを特徴とする。